

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 10 回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成 26 年 5 月 1 日 (金) 13 時 00 分から 14 時 00 分

開催場所 : パシフィコ横浜 会議センター1 階メインホール

(〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1)

出席者 : [学協会] 大路樹生(日本古生物学会・議長)、小林憲正(日本宇宙生物科学会、生命の起原および進化学会)、千木良雅弘(日本応用地質学会)、井上源喜(日本温泉科学会)、植松光夫(日本海洋学会)、井口正人(日本火山学会)、熊木洋太(日本活断層学会)、新野宏(日本気象学会)、村上隆(日本鉱物科学会)、豊田裕道(日本砂漠学会)、加藤照之(日本地震学会)、石川有三(日本情報地質学会)、鈴木啓助(日本水文科学会)、谷誠(水文・水資源学会)、竹内俊郎(生態工学会)、中尾正義(日本雪氷学会)、福田洋一(日本測地学会)、今村隆史(日本大気化学会)、小林文明(日本大気電気学会)、小松原純子(日本堆積学会)、小野昭(日本第四紀学会)、牧野泰彦(日本地学教育学会)、大平寛人(地学団体研究会)、嶋田純(日本地下水学会)、川幡穂高(日本地球化学会、地球環境史学会)、中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会)、武田一郎(日本地形学連合)、石渡明(日本地質学会)、森田喬(日本地図学会)、松永烈(日本地熱学会)、菊地俊夫(日本地理学会)、西脇保幸(日本地理教育学会)、玉川英則(地理情報システム学会)、野上道男(東京地学協会)、上田元(東北地理学会)、溝口勝(土壌物理学会)、鈴木正哉(日本粘土学会)、石郷岡康史(日本農業気象学会)、斎藤秀樹(物理探査学会)、楊宗興(日本陸水学会) 知北和久(陸水物理研究会)、近藤昭彦(日本リモートセンシング学会)、田近英一(日本惑星科学会) [学術会議] 永原裕子、北里洋、中島映至、大久保修平 [連合] 津田敏隆、木村学(川幡穂高、中村正人)

議事内容 :

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 新規加入学協会の紹介「日本大気電気学会」(議長) 資料 P. 5

平成 25 年度第 7 回理事会(平成 26 年 3 月 8 日開催)にて日本大気電気学会の入会が承認され連合の団体会員となった旨報告があり、小林会長より挨拶があった。

3. 日本地球惑星科学連合活動報告

(1) 2014 年連合大会開催状況報告 (連合 津田会長) 資料 P. 6

2014 年連合大会の開催状況について報告があった。

・セッション数は、過去最高の 193、投稿数は 3806 件でやや減少した。会場数は 18 会場から 26 会場と増えたので、口頭発表の割合が高くなったと同時にパラレルセッションが増えることになった。

・来場者数は、開催日が 1 日減ったが、昨年同等程度になる見込みである。

・今大会は、1990 年第 1 回合同大会から数えて 25 回目の記念大会として、25 周年記念式典を開催する。式典では、フェローの表彰式が行われる、フェロー受賞者は、推薦委員会より選出された、43 名の表彰をおこなう。

(2) 「Progress in Earth and Planetary Science」に関する報告 (連合 川幡副会長) 資料 p. 7-8

連合のジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」に関する活動報告があった。

・4 月 22 日に発刊された。現在 30 本の投稿受付があり、順次発行予定である。これまでのご協力へ深く御礼を申し上げたい。

・昨年度は、システムの不具合対応などで発刊までの作業に時間を要したが、今後は、迅速かつ順調な出版を進めながら、質の高いジャーナルを担保するための活動にも力をいれていく。大会後、セッション・コンビーナによる優秀論文の推薦受付や、国際セッション・シンポジウムの推進を行う予定である。

・広報活動のうち、会員の情報発信ツールとして開発した “MyJpGU” システムに PEPS 論文の検索機能があるが、将来的には学協会の出版しているジャーナルも含めて検索機能も追加し、JpGU 参加 50 学協会からの科学成果の海外への情報発信強化を推進していく予定である。

・3 月 20 「PEPS」の日本における商標登録が完了した。

4. 日本学術会議の近況報告 (日本学術会議地球惑星科学委員会 永原委員長) 資料 P. 9-15

日本学術会議の活動について報告があった。

(1) 地球惑星科学委員会提言作り

2011 年にスタートし、東北地震および福島事故について、分野としての総括を行う。緊急時に科学者が社会のためにどのような方法で、どのくらいの精度で情報発信をしていくべきか。またその情報の受け手である国民への教育、マスコミへの対応などを盛り込む。現在最終調整中で、完成後は連合のホームページ掲載する予定である。

(2) 大型研究計画マスタープラン 2014 と今後の方針

2014 年 2 月 28 日、マスタープラン 2014 が公表された。全 192 件のうち、地球惑星科学分野では、16 件の大型計画が採択された。しかしながら、さらに重点大型研究の対象としてヒアリングが行われた 27 件のうち、採択されたのは、地球惑星科学分野

では、1件のみだった。他分野に比べて、地球惑星科学分野のヒアリング対象件数に対する採択件数の割合の低かった点は、分野全体の問題として受けとめ、対応を考える必要があると思われた。この結果を踏まえ、地球惑星科学委員会では、今年と来年の秋に公開ヒアリングを予定している。公開で行うことで提案内容の情報共有の場となり、計画間連携の検討なども行ってもらえるよう、地球惑星科学分野全体の計画の強化をはかりたい。

(3) 大学教育参照基準作り

ほぼ完成した。連合ホームページに掲載する予定である。

(4) 第23期学術会議会員・連携会員選び

第22期は、今年9月で任期満了となり、年10月1日よりスタートする第23期メンバーについては現在選出中である。

5. 次期学協会長議長の選任

津田会長より、次期学協会長会議議長に、日本惑星科学会田近英一会長の推薦があり、満場一致で決まった。

・歴代の議長の分野・学協会のバランスを考慮し、次期議長には、宇宙惑星科学分野に担当いただくことにした。

*連合設立以降歴代議長

廣田先生（大気水圏・日本気象学会）、平原先生（固体地球・日本地震学会）、矢ヶ崎先生（地球人間圏・日本地理学会）、石渡先生（固体地球・日本地質学会）、大路先生（地球生命・日本古生物学会）

6. その他（質疑応答・意見交換）

・PEPSの商標登録について

今回防衛的な見地からまず日本についてのみ登録申請を行った。状況を見ながら、アメリカ、ヨーロッパ、中国での登録も検討していく。

・2015年連合大会、アメリカの地質学会（GSA）と共通セッションを開催について
連合としては、今大会がEGUと同時期だったため見送ったが、2015年大会では、25周年記念行事の一環として、AGU、EGU、AOGSなど国際連携組織の代表者を招き、国際シンポジウムまたは式典を開催する予定である。GSAとの共通セッション開催も、これらの国際交流の一環として前向きに検討したい。

・連合「グローバル戦略委員会」設置について

日本が、世界のリーディングコミュニティのひとつになることを目標に、今後は、連合は国際化事業を推進していく。その主体組織として、新たに設置した。7月にはAGU

首脳部とのミーティングをおこない、WPGM の取り扱いについてなどを検討、意見交換を行う。

以上